

令和5年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間 **最終**)

音戸中学校区 校番 19 学校名 音戸中学校

a 学校教育目標	＜小中一貫教育目標＞ ふるさとを愛し、自律できる 児童生徒の育成 志をもち、自ら動き、 たくましく生活する 生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	＜ミッション＞(学校の使命) 生徒・保護者・地域の期待に応える中学校教育の実現 ＜ビジョン＞(将来の学校像) ～連携・伝統・創造～ ○生徒に、学ぶ喜びと生きる夢を与える学校 ○職員に、責任と意欲を育む学校 ○保護者・地域に、元気と文化を発信し続ける学校
----------	--	----------------------	--

c 中期経営目標を踏 まえた現状(進捗状 況)と今年度の重点	基礎学力の定着が不十分な生徒、自己肯定感をもち切れない生徒、目的意識の低い生徒が多い。 →「鍛える・励ます・つなげる」をキーワードに授業改善、教育活動の充実を図る。
--------------------------------------	---

育成すべき資質・能力	(1) 知識・技能 (2) 思考力・判断力・表現力 (3) 協働的に関わる力 (4) 地域の一員として関わる力
------------	---

評価計画(中期経営目標を設定してから ①・2・3 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	9月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	確かな学力 「自分の考えをも つ力」「自分を表 現する力」を主体 的に身に付けた 生徒の育成	(貫) 生徒が主体的に 課題解決に取り 組む授業づくりの 推進	○考える授業づくりを推進する。 ・ICTを効果的に活用した授業 実践を行う。 ○課題発見・解決学習等の授業 研究を行う。	○「思考・判断・表現」 の観点からB以上の生 徒の割合(国・数) ○課題発見・解決学習 等の校内研修を実施	昨年度 比+10ポ イント以 上 年間3 回以上	2年 63.9% 3年 60.0%	2年 90.0% 3年 96.8%	2年 B 3年 B	2年 40.7% 3年 57.5%	2年 57.3% 3年 92.7%	2年 C 3年 B
		自分の考えを自 分の言葉で伝え られる表現力の 育成	○「1分間スピーチ」を帰りの会 で全校で行う。 ・自他のスピーチに対して、自 分の考えをまとめることを通 じて、生徒の情報収集力や 思考・表現力を育む。	○1分間スピーチに関 するアンケートにおい て肯定的に回答した 生徒の割合	80%	70.3%	87.9%	B	75.2%	94.0%	B
		地域協働活動の 推進	○OKP(音戸地域協働プロジェク ト)活動を実施する。 ・ボランティアを募り、地域行事 に参加して協力する。	○OKP活動の年間実施 回数(1学期3回、2学 期4回、3学期3回)	年間10 回以上	2回	-	-	10回	100%	A
**	豊かな心・健やか な体 「人を大切にする 力」「チャレンジす る力」「体力を高 めようとする力」を 身に付けた生徒 の育成	個に応じた支援 の充実	○生徒の思いやニーズに応じた 支援を充実させる。 ・学校体制で教育相談を全生 徒に実施する。 ・保護者や関係機関・専門家 (SC等)と連携し、個々の生 徒に対応する。	○「学校に行くのは楽 しい」と回答した生徒 の割合	80%	81.4%	101.8%	A	86.8%	108.5%	A
		自己肯定感の 高揚	○生徒主体の活動を充実させ、 達成感・充実感をもたせる。 ・生徒会・委員会活動を日常的 に行い、活性化させる。 ・サオンドバッジ制度を活用し、 生徒の挑戦・努力する姿を評 価する。	○自己肯定感に関する アンケートにおいて、 肯定的評価をした生 徒の割合	75%	71.3%	95.1%	B	72.7%	96.9%	B
		生徒の運動意欲 の高揚	○運動意欲を喚起できるように、 新体力テストの実施方法を工 夫する。 ・前回の記録を基に目標を設定 させ、記録更新をめざして 取り組ませる。	○運動やスポーツが好 きな生徒の割合	70%	79.0%	112.9%	A	77.7%	111.1%	A
*	安心・安全で、教 職員がやりがいをも って働ける学校 「組織マネジメント を確立する」「公開 性を高める」	防災教育の充実・ 深化	○地域の災害リスクを踏まえた 実践的な防災教育を行う。 ・地域人材や出前授業等を活 用し、自分事として捉えられ る防災教育を実施する。	○自分が住む地域に起 こりやすい災害につ いて理解している生 徒の割合	80%	90.9%	113.6%	A	90.1%	112.6%	A
		「働き方改革」の 推進	○職員の時間外勤務時間を縮 減する。 ・部活動休養日の完全実施等 を行うとともに、教職員に対す る評価・声かけや業務量の調 整を随時行う。	○1ヶ月の時間外勤務 時間が45時間未満の 職員の割合 ○「日々の業務の中で 充実感を得られている」 と肯定的に回答した 職員の割合	70% 70%	72.5% 60.0%	103.6% 85.7%	A B	71.9% -	102.7% -	A -

【k:評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60